

# 柏崎市コミュニティ推進協議会 だより



## 発刊によせて

柏崎市コミュニティ推進協議会  
会長 茂田井 信彦

このたび、市内各町内会の皆さまに対して、はじめてコミュニティ推進協議会だよりを発行させていただく運びとなりました。

柏崎市コミュニティ推進協議会（通称 コミ協）は、柏崎にある 31 地区のコミセン全体が参加、柏崎において地域づくりの中心的役割を担うコミュニティ職員が一堂に会し、コミュニティ課題の共有化や研修などを通じた地域力の向上に取り組むための組織です。各地域においては、日頃から町内会の皆さまとコミュニティとは緊密な連携や意思疎通を行っているところですが、このたよりを通して我々の活動を知っていただくことで、お互いのさらなる連携に資することができれば、これほど嬉しいことはありません。



## 米山コミセン茶屋にいらっしゃい



準 V を獲得した贅沢な鯛茶漬け



熱心に聴講する参加者



これまでの苦労話や今後の抱負を語る佐藤社長

米山コミュニティセンターでは、地域の特産品を活かした食べ物の試食を中心に、人々がコミセンに集い、語り、交流を深める機会をつくるため、毎月第 3 火曜日に「米山コミセン茶屋」を開店しています。「コミセン茶屋」の名前は、江戸時代に北国街道沿いの米山地区にあった「弁慶茶屋」から命名されたものです。今年は 4 月のえご料理にはじまり、そばや鮭など月替わりの試食会が予定されています。

そんな独自の取り組みをしている米山コミセンの活動に地域活性化のヒントを得るために、コミセン主事研修を開催しました。今年 1 月の「全国ご当地どんぶり選手権」で準グランプリを獲得した「鯛茶漬け」に関わられた浪花屋夕風亭社長の佐藤秀則氏を迎えての講話も企画され、大勢のコミセン主事が熱心に学習しました。

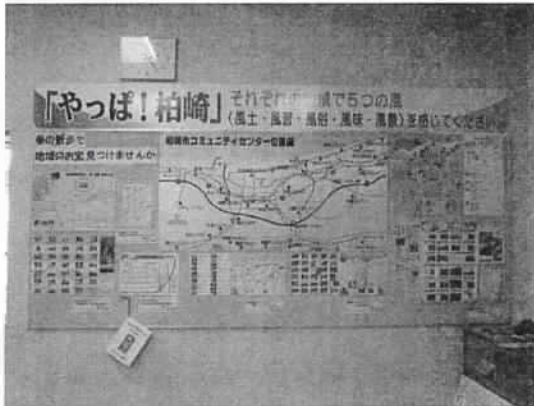
地域の特性を活かしたコミュニティ活動を行うことの大切さをあらためて実感することができた。今後の活動に活かしたい。

### 参加者の声

女性だけでなく男性からもコミュニティ活動に参加していただくための方策に知恵を絞らなくてはならないと感じた。

# ご存知ですか？

## ◎コミュニティ掲示板◎



定期的に掲示替えの作業を実施しています

コミ協では、柏崎駅の待合室の壁面にコミュニティ掲示板を設置し、コミュニティが行う取り組みや、地域のとおき情報などを皆さんにお伝えする活動を行ってきました。現在、柏崎駅が改装工事のため、場所をソフィアセンター2階に移して掲示しています。

ソフィアセンターにお立ち寄りの際は、ぜひコミュニティ掲示板をご覧ください。面白い発見があるかもしれませんよ。

### これまでに掲示した内容

- 地域づくり頑張っています！
- 来て見て発見！地域の宝
- 受け継がれる冬の風物詩
- 五感で感じる春のおとずれ
- 地域の歴史を探してみませんか
- 柏崎を彩る初夏のしらべ
- 行楽の秋 各地の魅力をお楽しみください ほか

## 元気なコミセンにお邪魔します

### 第1回

### 南鯖石コミュニティセンター



「目立たないが地域に根ざした地道な取り組みを継続することが大切」と語るセンター長の小山さん



南鯖石地区は、市の中心部から南東へ15kmほど山間部に入った、9つの集落からなる地域です。

地域では、少子高齢化の現実を受け止めた上で、高齢者が安心して住める地域、若者が定着したくなる地域を目指し、「ほっとピアプラン」と題して豊かな自然を活かした地域づくりに取り組んでいます。

平成8年から始まった子育てサークル「えくぼ」や高齢者向けの「いきいき講座」など、少子高齢という地域の課題に沿った活動を展開。コミセンを中心にして、孤立しがちな人と人とのつながりづくりに努めています。

派手なイベントではなく、地味ながらも継続して取り組むことで、「当たり前」にある地域交流の場を提供し、時代とともに変わる住民ニーズに対応しながら、地域住民の日々の生活の充実・安心を提供していくことを目標に、毎日頑張っています。



# 災害ボランティア受け入れの秘訣とは？

柏崎市は、5年前の中越沖地震の発生直後から、県内外からの多くのボランティアに助けられた経験を持ちます。また、このたよりをご覧いただいている皆さんの中には、東日本大震災の被災地でボランティアとして活動された方もおられるのではないのでしょうか。

7月にコミ協が主催した「災害ボランティアコーディネーター養成講座 中級編」では、ボランティアを受け入れる側の心構えや対応について学び、今後いつ起きるとも知れない災害が発生した際に、個人としてだけでなく地域として助けられ上手になるための方法について学ぶ機会となりました。

## コラム「支援力と受援力」

災害ボランティアというと、作業服を着て、泥にまみれたタンスを運んだりゴミを片付けたりという姿を想像する方は多いと思います。災害時に助ける側（支援力）であるボランティアは、日本にも一つの文化として根付きつつあります。

一方、ボランティアを受け入れる側の体制や意識（受援力）については、まだ十分に高まっているとは言えない状況です。

集まった大勢のボランティアから、被災者が本当に必要なことを効率的に作業してもらうことは非常に重要なことです。そのためには、ボランティアを受け入れる側の体制や心の持ち方を学ぶことで、支援する側、支援される側双方にとって、ボランティア活動の価値をより高めていく必要があります。

いつ起きるとも知れない災害の備えとして、個人や地域の受援力を高める取り組みは非常に重要なものです。

真剣に講師の話聞く参加者



講師の李仁鉄さん（にいがた災害ボランティアネットワーク）

講師の課題に取り組む参加者



中越沖地震から5年が経ちました。

市内では、復興のシンボル「新市民会館アルフォーレ」が7月に開館し、復興については一定の目処がついた形となりました。

人間は忘れる動物といわれます。今回の大震災でも過去の教訓を忘れたことが被害につながったという報道がありましたが、災害についての記憶は決して忘れないように、毎年1回は振り返る機会を持ちたいものです。

# 綾子舞街道、がんばってます！

皆さん「越後柏崎七街道」をご存知ですか。

柏崎の市域は広く、過去には主な街道沿いに多彩な地域文化が生まれました。

そこで、柏崎を七つの街道に分けて地域独自の文化や歴史を掘り起こし、スポットを当てようというのが「越後柏崎七街道」の取り組みです。今回はその一つ「綾子舞街道」で風土市の取り組みを行う野田コミセンをご紹介します。



国道353号線沿いの野田、鶴川、別俣、上条、高田の各コミセンでは、綾子舞街道「風土市」の日にあわせて、地域の特徴を活かした様々なものを販売しています。

昨年、野田コミセンでは、地域住民から出店者を募集し、採れたて野菜や手作り料理、アユの塩焼きなどを販売。新メニューとしては、いれたてコーヒーとシフォンケーキなども販売しました。

今年は、野田コミセンを含む地域の風土市は、11月4日（日）に予定されていて、野田コミセンではコミセンまつりと同時開催の予定です。昨年は来客も多く、午前中で売り切れるものが多かったようです。今年も早目がおすすめ。美味しい物から売り切れ必至です。興味のある方はぜひお出かけください。

## コミュニティ40周年記念講演会においで下さい！

コミ協では、柏崎市におけるコミュニティづくりが今年40周年を迎えることから、これまでの歩みを振り返りながら、今後のコミュニティのあり方を考える講演会を行います。平日開催となりますが、多くの方のご来場をお待ちしています。

○とき 11月27日（火） 13：40～（13：00～開場）

○ところ 柏崎市産業文化会館1階文化ホール